

立教185年  
活動方針

・初席者 66名  
・中席者280名

「おやさまのひながたとは、  
ようぼくを育て増やすこと」

末代の道に向い、素直にひながたの道をたどろう

◇三代会長 三幣かく之霊様50年祭執行◇

7月13日(水) 大勢の参拝者が集い執行された。

◇10月26日諭達御発布◇

教組140年祭に向けて、真柱様より諭達が御発布  
されることが発表されました。

当日は教会長はじめ、多くの参拝者が集い、直にその理を  
頂戴し、年祭活動へと足並みを揃えさせて頂きましょう！！

◇秋季大祭◇

コロナ禍により、空港からのリムジンバスが休止しているため、  
詰所からの送迎を予定しています。詳細は追ってご連絡致します。



発行所  
天理教網走大教会  
布教部出版広報掛  
〒093-0073  
網走市北3条西6丁目  
TEL 0152-43-2227  
FAX 0152-44-2227



大教会のHP がご覧になれます！  
月報には掲載されない写真もいっぱいです！  
ぜひ一度ご覧下さい♪

大教会七月月次祭

大教会7月の月次祭は、12  
日午前9時30分から大教会長  
祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様  
の御守護に御礼申し上げた後、  
「今月末より八月の頭に向け  
て、網走に繋がる少年会員が、  
各隊に分かれ、おぢばに集い、  
親神様・おやさまの温かい親  
心を頂戴し、ぢばに喜び勇ん  
で伏せ込ませて頂きます。何

卒、期間中無事無難にお連れ  
通り頂けますようお願い致し  
ます。私共教会長をはじめよ  
うぼく一同は、教祖百四十年  
祭の三年千日があと半年と迫  
る中、ぢばの声を素直に受け、  
自身の都合を捨て、大きな時  
旬の準備に取りかからせて頂  
く所存でございます。」と奏  
上した。

神 殿 講 話

栗 林 徳 正 役 員



神殿講話抜粋

今年の1月に大教会の職務  
変更があり、この度、少年会  
団長の御命を頂戴いたしました。  
その3年前には、副団長も  
勤めさせて頂きましたが、皆  
様も御存じのようにコロナウ  
イルスの蔓延により世界規模  
での活動の自粛・縮小となり

ました。当然本教においても、  
月次祭の自粛、布教活動、縦の  
伝道といわれる育成活動の自  
粛と、我々人間の心の成人の  
足りなさから、親神様にお見  
せ頂いている状態であります。  
私自身も副団長としてことも  
おぢばがえりに携わったのは、  
最初の1年のみでありました。  
私の年齢で申しますと、49歳  
から51歳とあまり変わりはない  
りませんが子供たちの成長は  
早いものと感じました。

未就学であった子供たちは  
小学校の低学年になり、小学  
校高学年の者は中学生になり、  
中学生は早くも少年会員を終  
えて高校生となりました。こ  
の3年間の育成期間の喪失は  
取り返しのつかないことであ  
ります。周囲の話を聞かせて  
頂くと未就学の子供のことを  
少年会では、めばえと申しま  
すが、めばえの子供たちが、  
教会のお泊り会をしないこと  
で、親神様、教祖の名前を言  
えない、また、教会に参拝に  
来ないので、おつとめや鳴物  
ができないといった事が挙げ  
られました。皆様も自身の子  
供の頃と比較して考えてみて  
下さい。親御さんに付いて  
行ったり連れて行かれたりし  
て、わからないながらも参拝  
をしたり、おつとめの真似事  
をしたり、信仰に触れ合う機  
会を得ていたと思うのであり  
ます。現在、実情はこのよう  
な形となってしまいました。が、  
網走大教会の子供たちの育成  
に携わる1人として、この度  
は、歴代真柱様のお言葉を中  
心に少年会員の育成について、  
また、それに携わる親として  
の心の有り方、更には、教祖の  
ひながたを通してお話しを進  
めさせて頂きたいと思えます。

本年真柱様は、年頭会議の席上、「コロナの感染者が、この先どのようなことになるのか、私たちにはわかりません」と前置きされ、「安心して御用ができて、できなくても、時間は同じように過ぎていきます。できないのはコロナのせいだというようにせずに、与えられた条件のなかで、やらなくてはならないことを、いままの時間を考えて、それぞれのつとめを果たしていったらいいと思います。」と仰せられました。

少年会も今月の26日より「こどもおぢばがえりが」開催されますが、残念ながら通常のこどもおぢばがえりの開催とはいきませんでした。今年、二本の柱で子供たちにおぢばに帰って頂きたいと思うのであります。

1つ目は「少年ひのきしん隊本部練成会」であります。昭和47年に少年ひのきしん隊が結成されて50年の節目の年に当たります。ご本部においては、「少年ひのきしん隊本部練成会」が実施されます。ここも通常通りのように4泊

5日というわけにはまいりませんが、わかぎ(中学生)の育成をおぢばでの、ひのきしんを通して道の子供である自覚を促し、今後の活動に生かしていきたい主旨であります。2つ目は、「夏休みこどもひのきしん」であります。昨年もお本部において開催されておりましたが、「こどもおぢばがえり」の中止の発表を受けてのお打ち出しでありましたので、周知徹底をさせて頂くことが出来なかつた思いがあります。今年早くから「夏休みこどもひのきしん」のお打ち出しがあり、期間も7月26日から8月28日と長期に渡っておりまして、1人でも多くの子供たちが、親神様、教祖におぢばに帰らせて頂いた喜び、ひのきしんをさせて頂ける感謝を申し上げ、成長した姿をご覧頂きたいと思っております。また、この「夏休みこどもひのきしん」は、家族や、教会、地域においても実施させて頂くことが可能でありますので、ひのきしんを軸として、子弟育成の上にも勤めて頂きたいと思っております。

二代真柱様は、教祖80年祭が執行された、昭和41年に、お道の将来を担う子供の信仰を見据え、天理教少年会を創設され、次代に信仰を伝える重要性をお話下さいました。「私は今年から、なるべく布教という言葉は、横に使って、伝道という言葉は縦に使用しよう、とかように考えたのであります。布教ということは教えを布くことではありませんか、どうしてもこれは縦横と云うている時には、言葉の上に無理があるような感じをかねがねしておったのであります。今までは使いたくありませんが、今までは使いたくありません。言葉でありまして、あえて変えずにもおりました。しかし、今度は、続いておつてこそ道という、というお言葉のありますように、血の続いている縦に教えを伝えること、喜びを伝えること、この場合には伝道という言葉を使つてはどうかと考えているのであります。【中略】

親の喜びを子供に伝える。そのためにはどれだけの骨折りをして来たか。私はそれを思案してみます時に私達の骨折りはまだまだ不十分であつたかと考えるのであります。食うに困るとか、その他の理由をもとに、子供に対する育て方というものには案外放擲されておつたのが、今までの私達の有様ではなかつたでしょうか。これは私達のさんげする筋であると思ひます。即ち、横の布教の忙しさにまぎれて、縦の伝道を怠つておつたということになるのであります。これは親から子へ、子から孫へと伝わる血の流れのように、親の喜びは子供の喜びであり、子供の喜びは孫の喜びであるというように、この道が続いておつてこそ道と言えるところであります。【二代真柱様、昭和42年1月5日 年頭会議】

このお言葉を考えさせて頂きますと、この頃、昭和41年頃には、親の信仰が子供に伝わりにくい状況、即ち親の信仰の喜びが、子供の喜びに繋がつていけない原因があり少年会の発足に繋がつていくと思われまふ。(天理教少年会第一回団長講習会)

また、少年会発足当初から、少年会長としてご指導下された三代真柱様は、信仰を次代へ繋いでいく親の役割として、この様に仰せられています。「子供というものは、自分のものではないと自覚を持つことでもあります。親神様、教祖からの預かりものであるとの認識を深めるといふ意味であります。【中略】

この思案を抜きにして、たすけ一条の道、伝承の御守護は頂きにくいのではないかとさえ思われるのであります。いんねんあつて、それぞれの魂にふさわしい時に、この世に生まれてきた子供、その子供を持つて初めて親となつた者にとりまして、その子供は、親神様が、その親にお預け下された子供であると、私は信じているのであります。言わば、教祖からお預かりした子供でありますから、教祖のお心通りにこの子を育てなければならぬのは、親の責任なのであります。教祖の用向きに、ふさわしい子供に育て上げるのが親の任務であるといふことなのであります。」(昭和54年1月27日 天理教少年会年頭幹部会)

更には、「私の強調したい一つのこ

とは、まず私たちが親神様から預かつた自分の子供を一人残らず道を通つてくれるような子供に育てようということであり、縦の伝道を再認識することでありまふ。【中略】

どれだけ沢山の子供を親神様から授けて頂きました、私たちにとつてその子供がこの道を通らずして、授けて頂いた親の心に応えるということにはならないと言へるのではないでしようか。信念を持って我が子を、同じく教え子として立派に道を通つてくれるよう指導することは、その子の親として一番関心をもつて力を入れなければならぬ問題であるということ、新しい道の友を引き寄せることと併せて、否、それ以上に大切なこととして心に治めて頂きたい、と思うのであります。」(三代真柱様 昭和57年1月5日 年頭御挨拶)

教祖130年祭のお話の中で、真柱様は『こうして年祭を勤めた今日、改めて足元を見つめ直し、長い目で道の将来を担う人材を育てる、また、増やす活動に腰を据えて取り組まなければならぬ』更に『教

祖のひながたの道すがらは、陽気ぐらし世界建設の人材であるよふぼくを育て増やすことそのもの』と仰せられ、翌年の立教180年8月より、おぢばにおいて後継者講習会が、開催され、その年の初めより各直属教会で教会長子弟育成プロジェクトが開始されました。その委員会の席上では、何故、子供たちに信仰が伝わらないのか、伝えるためには、何をさせて頂くのか?という話になりました。その結果会長夫妻や、教会後継者などそれぞれが、信仰の元一日の話や、教会にまつわるいんねんの話の家系図などを用いて話して下さいました。その話を子供や、孫、または、兄弟に伝えさせて頂いたのではないでしようか。この子弟育成委員会は3年の期限がありましたが、私は現在も教会においては続けさせて頂いております。私共は、2人の子供を授けさせて頂いておりますが、毎年子供の誕生日に教会のいんねんの話、自分たちが親神様の御守護を頂き生まれさせて頂いたことについて話をさせて頂いておりますので、か

二代真柱様は、教祖80年祭が執行された、昭和41年に、お道の将来を担う子供の信仰を見据え、天理教少年会を創設され、次代に信仰を伝える重要性をお話下さいました。「私は今年から、なるべく布教という言葉は、横に使って、伝道という言葉は縦に使用しよう、とかように考えたのであります。布教ということは教えを布くことではありませんか、どうしてもこれは縦横と云うている時には、言葉の上に無理があるような感じをかねがねしておつたのであります。今までは使いたくありませんが、今までは使いたくありません。言葉でありまして、あえて変えずにもおりました。しかし、今度は、続いておつてこそ道という、というお言葉のありますように、血の続いている縦に教えを伝えること、喜びを伝えること、この場合には伝道という言葉を使つてはどうかと考えているのであります。【中略】

親の喜びを子供に伝える。そのためにはどれだけの骨折りをして来たか。私はそれを思案してみます時に私達の骨折りはまだまだ不十分であつたかと考えるのであります。食うに困るとか、その他の理由をもとに、子供に対する育て方というものには案外放擲されておつたのが、今までの私達の有様ではなかつたでしょうか。これは私達のさんげする筋であると思ひます。即ち、横の布教の忙しさにまぎれて、縦の伝道を怠つておつたということになるのであります。これは親から子へ、子から孫へと伝わる血の流れのように、親の喜びは子供の喜びであり、子供の喜びは孫の喜びであるというように、この道が続いておつてこそ道と言えるところであります。【二代真柱様、昭和42年1月5日 年頭会議】

このお言葉を考えさせて頂きますと、この頃、昭和41年頃には、親の信仰が子供に伝わりにくい状況、即ち親の信仰の喜びが、子供の喜びに繋がつていけない原因があり少年会の発足に繋がつていくと思われまふ。(天理教少年会第一回団長講習会)

また、少年会発足当初から、少年会長としてご指導下された三代真柱様は、信仰を次代へ繋いでいく親の役割として、この様に仰せられています。「子供というものは、自分のものではないと自覚を持つことでもあります。親神様、教祖からの預かりものであるとの認識を深めるといふ意味であります。【中略】

この思案を抜きにして、たすけ一条の道、伝承の御守護は頂きにくいのではないかとさえ思われるのであります。いんねんあつて、それぞれの魂にふさわしい時に、この世に生まれてきた子供、その子供を持つて初めて親となつた者にとりまして、その子供は、親神様が、その親にお預け下された子供であると、私は信じているのであります。言わば、教祖からお預かりした子供でありますから、教祖のお心通りにこの子を育てなければならぬのは、親の責任なのであります。教祖の用向きに、ふさわしい子供に育て上げるのが親の任務であるといふことなのであります。」(昭和54年1月27日 天理教少年会年頭幹部会)

更には、「私の強調したい一つのこ

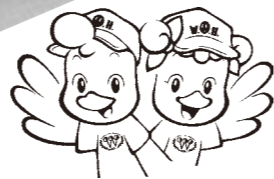
# 夏休み子どもひのきしん & 少年ひのきしん隊本部練成会



7月29日～8月2日の日程で少年会が各隊合同でおぢばがえりをさせて頂いた。今年はおぢばがえりに代わる行事として、夏休み子どもひのきしんが打ち出しされ、期間も通常は7月26日から8月4日までだったが、8月28日までと長期にわたり、おぢばに帰ってきた子ども達が、教えにふれ、そして楽しめる場を数カ所準備して下さいました。

また、少年ひのきしん隊も50周年という節目の年で、少年ひのきしん隊本部練成会が開催され、わかぎである中学生が1泊2日でおぢばに伏せ込ませて頂いた。おぢばでの行事の他、プールやUSJへ行ったりと、充実したおぢばがえりとなった。

少年会員32名(内わかぎ10名)・育成会員16名 計48名参加



## 三代会長 三幣かく之霊様五十年祭執行



三代会長 三幣 かく

7月13日(水)、三代会長三幣かく之霊様の50年祭が網走大教会にて、新川正人・大教会理事齋主のもと執行された。

(享年85歳)  
昭和47年3月7日 出直



- 〔三幣かく之霊様略歴〕
- 明治21年2月12日 千葉県安房郡豊田村沓見にて誕生
  - 大正3年10月27日 三幣勝五郎二代会長と結婚
  - 大正5年1月23日 おさづけの理拝戴
  - 大正5年11月11日 網走に來網(長女利恵と共に)
  - 大正14年12月24日 神館宣教所初代所長拝命
  - 昭和10年6月28日 實東宣教所初代所長拝命
  - 昭和21年4月23日 網走分教会3代会長拝命
  - 昭和43年6月28日 北海道教区相談役拝命(昭和23年)

## 修養科を終えて



誠網分教会所属  
矢代順子・悠真(3歳)・蒼征(0歳)・田中宏子

○修養科志願の動機、また、修養科生活はどうでしたか？  
(矢代) 夫の身上・自分の失業で悩んでいるところ、お世話になっていた茶木さん、誠布布教所長ご夫妻に修養科を勧めて頂き志願致しました。坐りづとめもわからず始まった修養科生活。初めて触れる物事ばかりで困惑し、生活するのが精一杯でした。別席を運び、十全の守護、八つのほこりを日々学ばせて頂くうちになぜ修養科にきたのか、そして、自分のほこりにも気付くことができました。夫の身上は神様の手引きだったのだと思いました。

## 教会長夫妻会議



7月13日、教会長夫妻会議が開かれた。  
教祖140年祭に向け、みちのとも6月号に掲載された、表統領・内統領の対談の内容に基づいて、教祖年祭の意義・三年千日の通り方・ひながたを通るといふことはというテーマで各教会の世話人が司会となって、ねりあいを見せて頂いた。

○修養科を修了して  
(矢代) 3カ月間で、神様のことで、心の遣い方をたくさん学ばせて頂きました。夫に感謝し少しずつでも天理の教えを伝えさせて頂きたいです。そして、まずは、身近な家族からおさづけを取り次がせて頂き、さらには周りの方にも取り次がせて頂きたいと思えます。  
(田中) 今まで天理の教えを知らずにきましたが、これからは日々神様のご守護や自分のおかれていた状況に感謝し、先案じを減らして先を楽しめるような心で通らせて頂きたいです。そして、この心を忘れないように教会や布教所など神様のいるところに繋がっていきたいと思います。

動 静

◎出直
▼直轄ようぼく・筒井正子様は7月8日出直された。享年87歳。

▼直轄教人・玉置淑子様は7月17日出直された。享年78歳。葬儀は7月18日みたままつしが、翌19日告別式が網走市の自宅にて直轄世話人・瀬川定自斎主のもと執行された。

▼網新分教会所属・加藤孝雄様は7月30日出直された。享年92歳。葬儀は7月30日みたままつし、翌7月31日告別式が網走市の網新分教会に於いて新川正美会長斎主のもと執行された。

◎年 祭
▼直轄所属・遠田久敏の霊様の50日祭が7月2日、網走市の自宅にて大教会長夫人祭主のもと執行され、引き続き合祀祭が大教会祖霊殿にて大教会長祭主のもと執行された。

▼直轄所属・光武悟の霊様の1年祭が7月19日、旭川市のやわらぎ斎場にて大教会長祭主のもと執行された。

◎神実様鎮座祭

▼網算分教会所属・岡澤龍宅では、神実様をお祀りさせて頂くこととなり、その鎮座祭が7月6日住居(東京都目黒区中目黒5-1-31)で細木善信網算分教会長祭主となり執行された。講名は「昇龍(しょうりょう)講」。

7月人のご守護

◎初席者 徳道 神保 香織 (2名)

◎中席者 直轄 東保 陽菜 (3名)

◎おさづけの理拝戴者(2名) 誠綱 菊池 ゆかこ

◎修養科修了者 誠綱 矢田 代中 順宏 (2名)

◎教人資格検定講習(中・後期)受講者 誠綱 馬道 奈緒子 (1名)

◎教人登録者 誠綱 馬道 奈緒子 (1名)

◎別席傍聴願 誠綱 馬道 奈緒子 (1名)

◎おまもり下附願 誠綱 馬道 奈緒子 (1名)

◎をびや許し願 誠綱 馬道 奈緒子 (1名)

育英会寄付者

遠田純子様 (夫50日祭・合祀)

玉置光正様 (妻出直)

栗林徳正様 (父30年祭)

新川知子様 (叔父出直)

大教会7月の動き

1日 役員会

2日 会長、遠田久敏の霊様合祀祭祭主つとめる

3日 縦の伝道日

4日 支部役員会会場

7日 お話し会

9日 支部総会会場

Table showing seat counts for the 7th month: 初席 2, 中席 6, 累計 9, 40.

Table listing dates from 10/11 to 31/31 with corresponding activities like '役員会', '月次祭', '霊様50年祭'.

立教185(令和4)年人のご守護成果表 (7月末現在) - Summary table of guardian activities.

7月 月次祭 7/12(火) - Detailed table of the monthly festival including participants and roles.